

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年9月5日

予報期間：9月7日～10月6日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

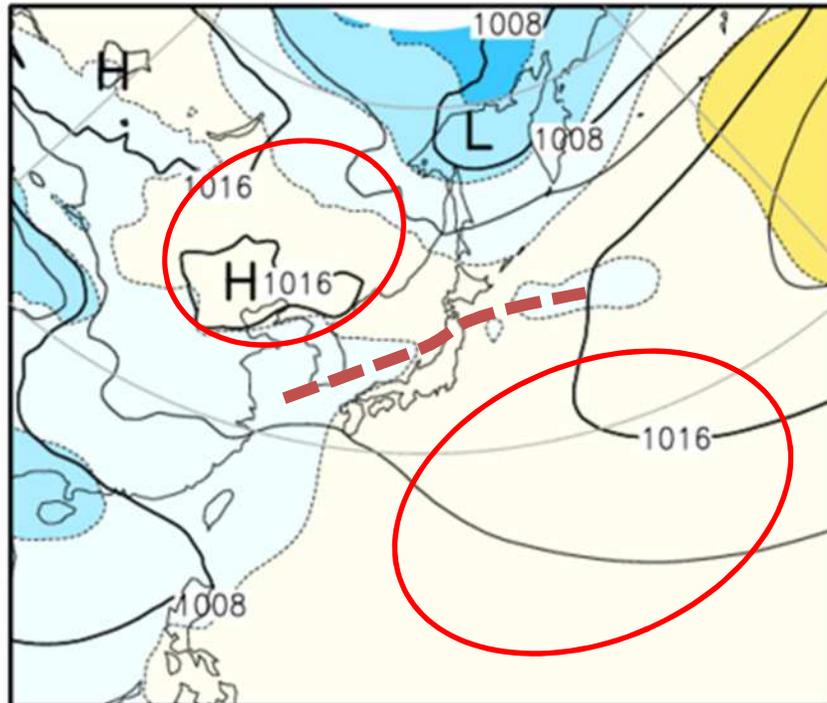
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
東日本	日本海側	10:10:80	30:40:30	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
西日本	日本海側	10:10:80	30:40:30	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:30:60	10:10:80	10:20:70

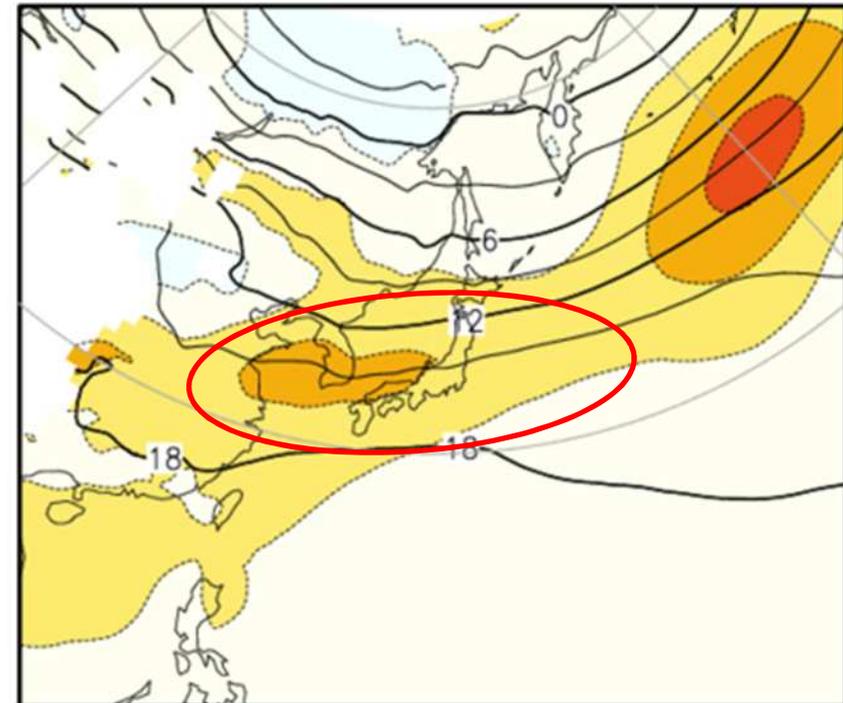
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる所が多いでしょう。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北日本日本海側と沖縄・奄美では平年並か多いでしょう。
- ・向こう1か月の日照時間は、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



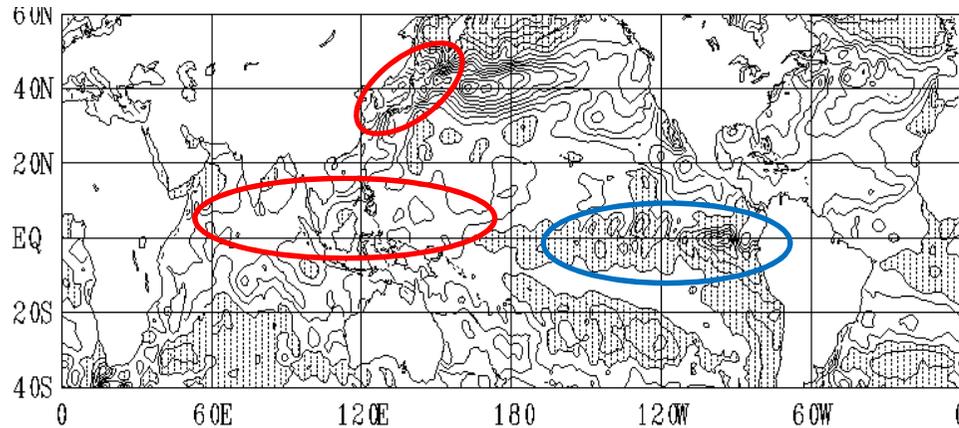
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南で強く、華北付近には高気圧がある一方、その間の日本海西部から千島の南にかけては気圧の谷で、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、沖縄・奄美付近では熱帯じょう乱の影響を受けやすい時期があるでしょう。

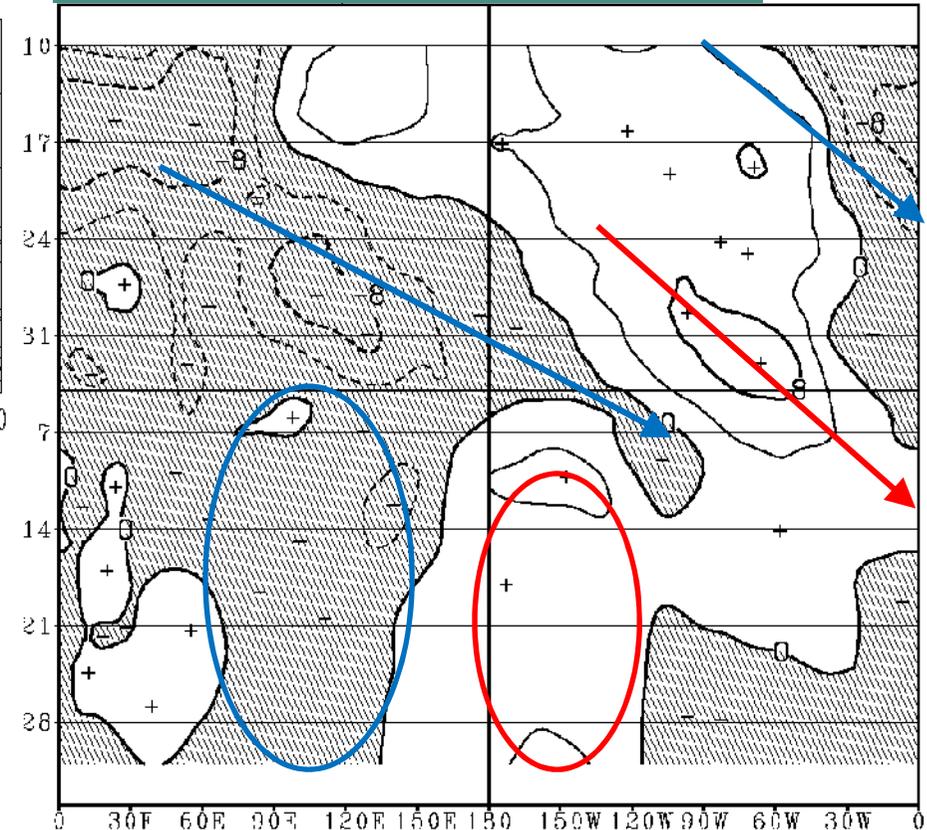
上空約1500mの気温(右図)は、西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



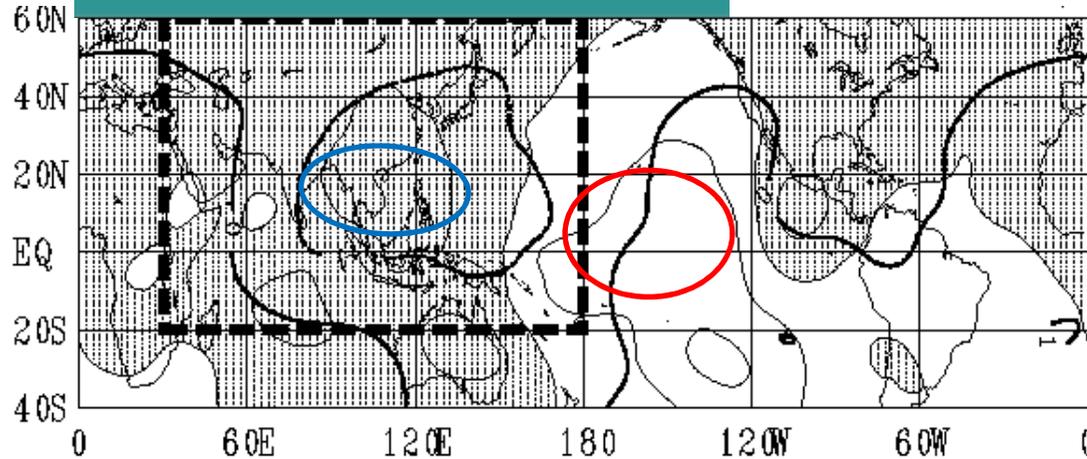
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差。東部太平洋赤道域では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。日本周辺海域で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



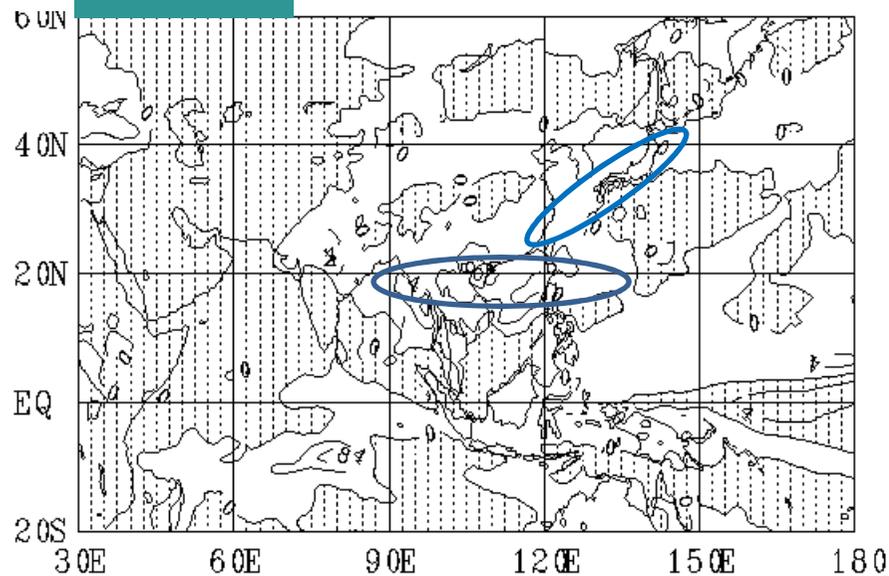
実況で対流活発域が西部から東部太平洋に東進。予測では、東進は明瞭でなく、中部太平洋で対流活動不活発、インドネシア付近で活発な状態が持続し、ラニーニャ現象的なSST分布の影響を示唆。

200hPa速度ポテンシャル



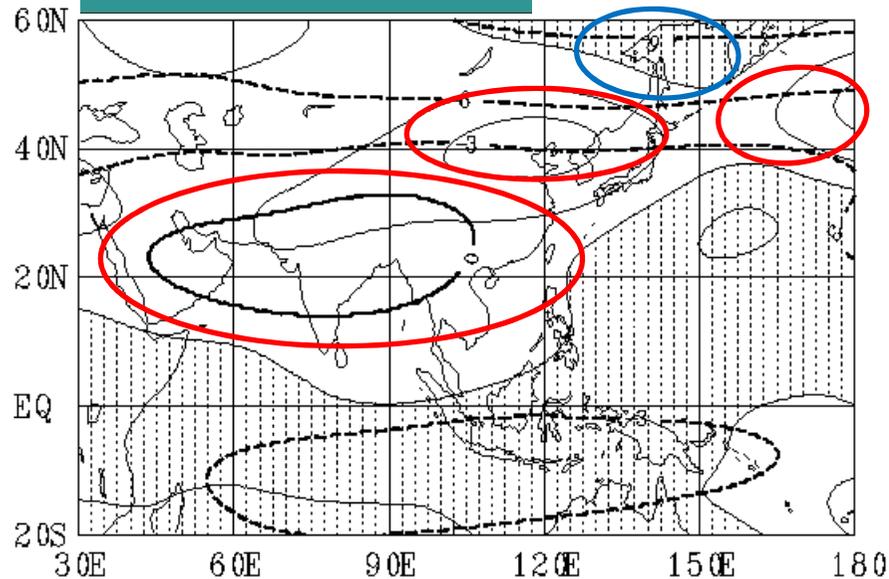
インドシナ半島付近からフィリピン東方海上にかけて上層発散偏差。中部太平洋で上層収束偏差。夏季の熱帯季節内変動とラニーニャ現象的なSSTの影響を示唆。

降水量



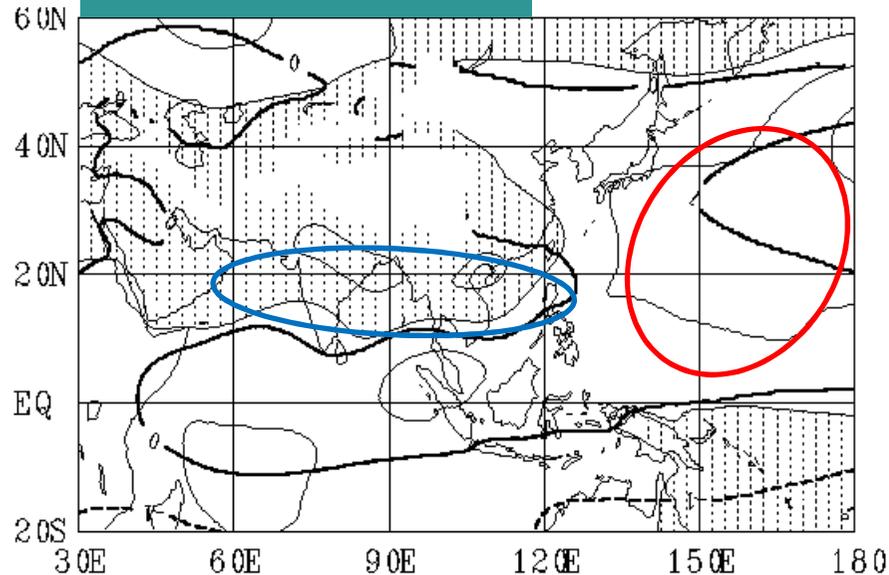
ベンガル湾付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差で、アジアモンスーン域の対流活動が活発なことを示している。北半球夏季の熱帯季節内変動とSSTの影響を示唆。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



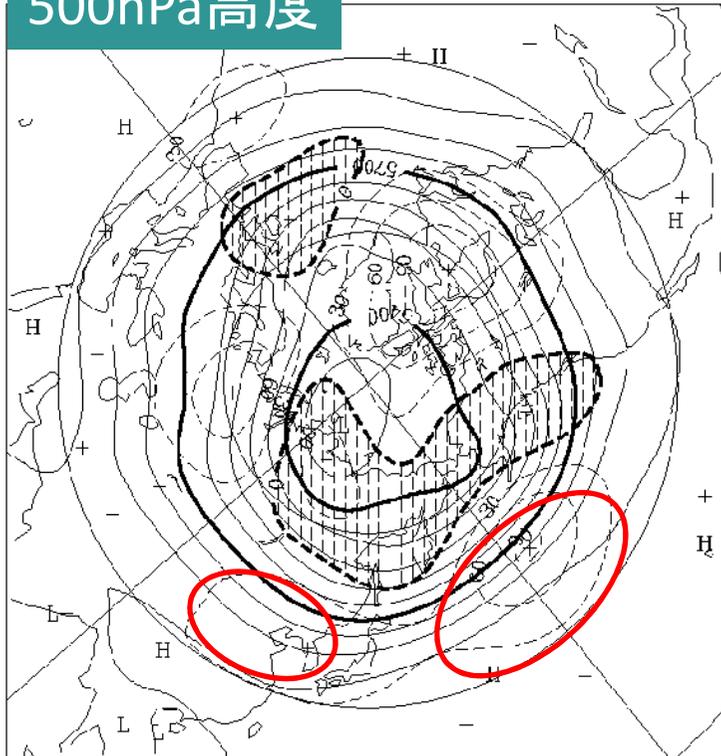
ユーラシア大陸南部で広く高気圧性循環偏差で、季節的なチベット高気圧の衰弱が遅く、アジアジェット気流は平年より北を流れる。それに重なって、華北付近とアリューシヤンの南で高気圧性循環偏差、オホーツク海付近に低気圧性循環偏差と波列状の偏差パターンが見られる。

850hPa流線関数



ベンガル湾から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響がある。

500hPa高度

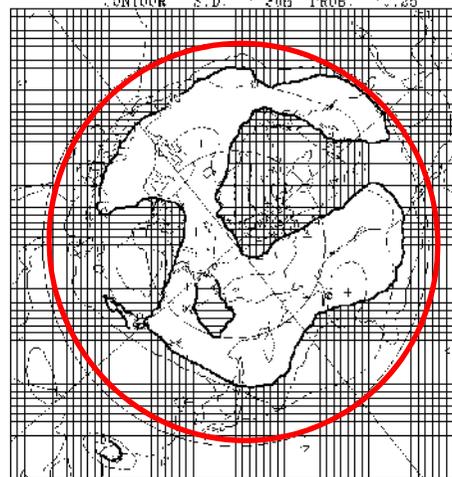
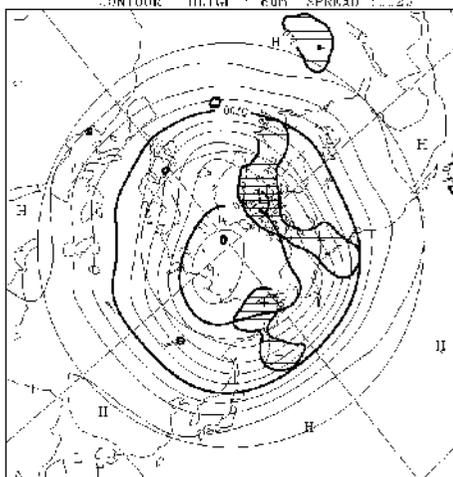


500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

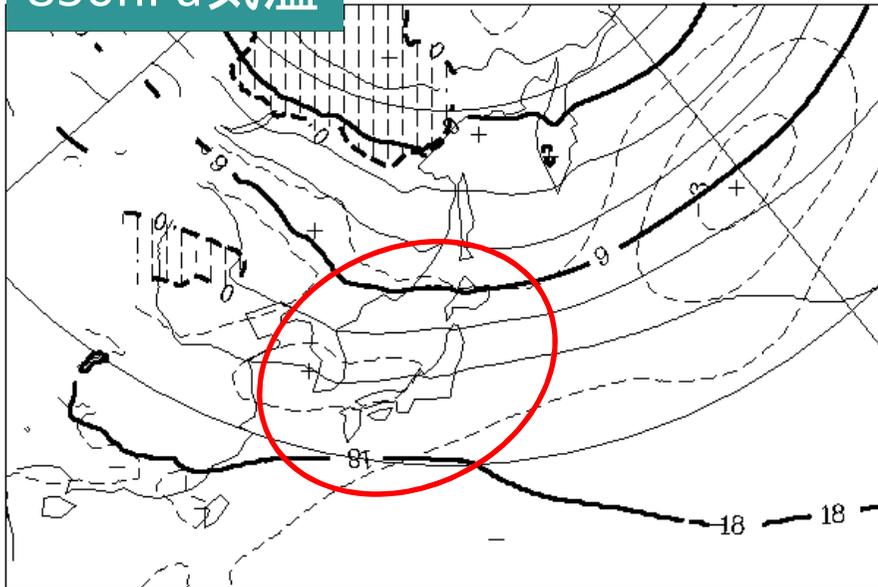
その中で、華北付近と日本のはるか東には特に強い正偏差域がある。日本付近では偏西風が平年より北偏して流れ、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

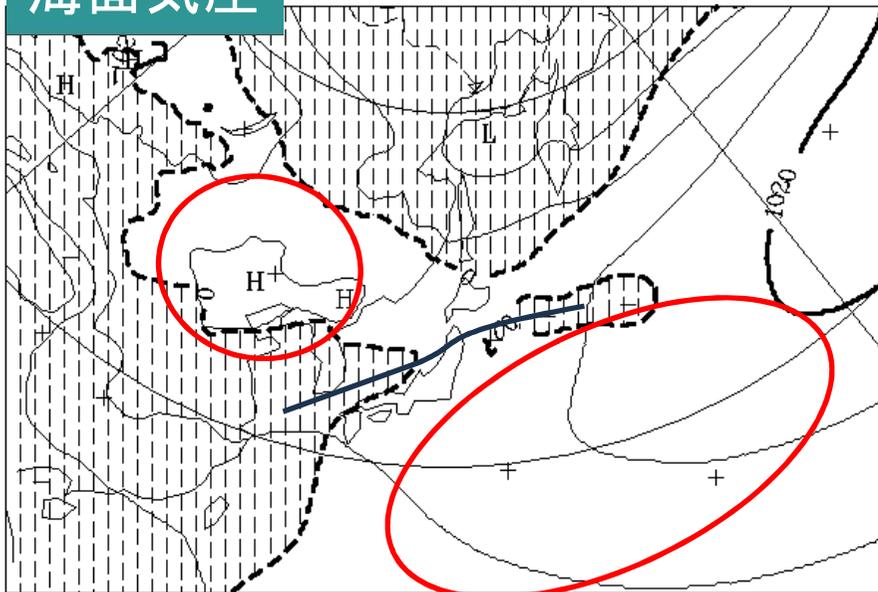


850hPa気温



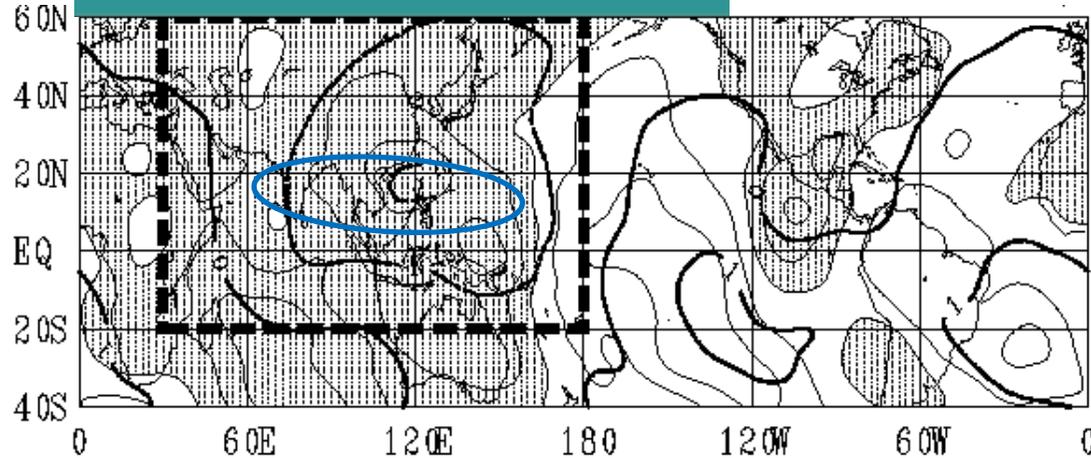
日本付近は上空の高温偏差に覆われる。日本付近の高温偏差の中心は西日本付近。

海面気圧



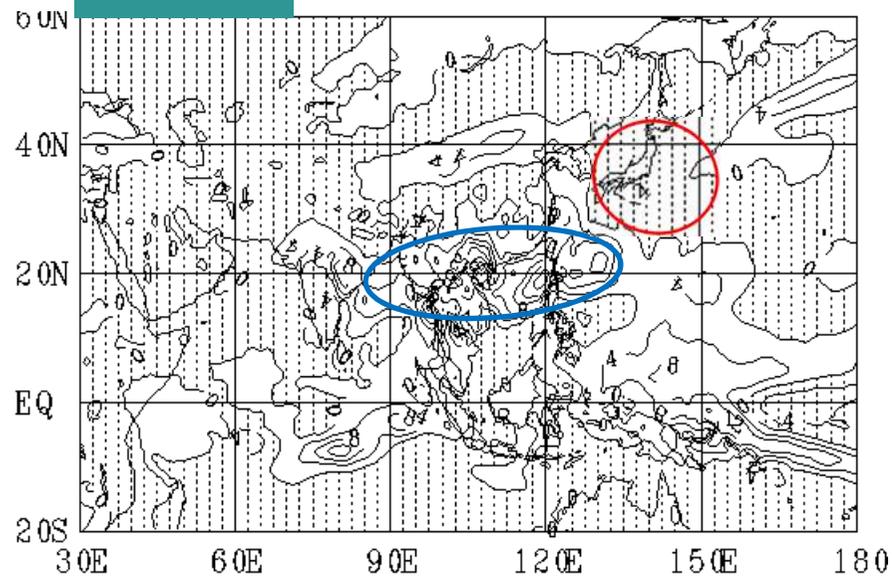
太平洋高気圧が日本の南で強く、華北付近には高気圧がある一方、その間の日本海西部から千島の南にかけては気圧の谷で、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。また、沖縄・奄美付近では熱帯じょう乱の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



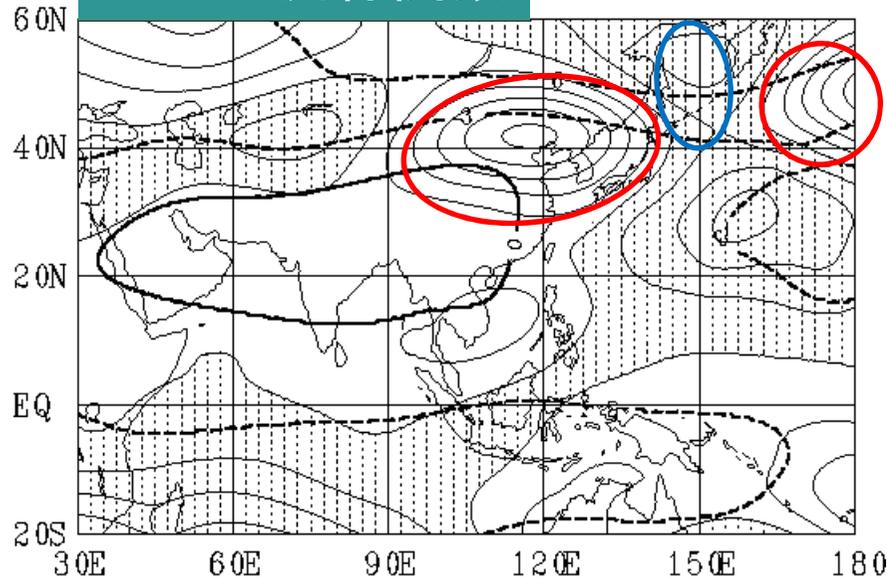
ベンガル湾からフィリピンの南東海上にかけてを中心に上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

降水量



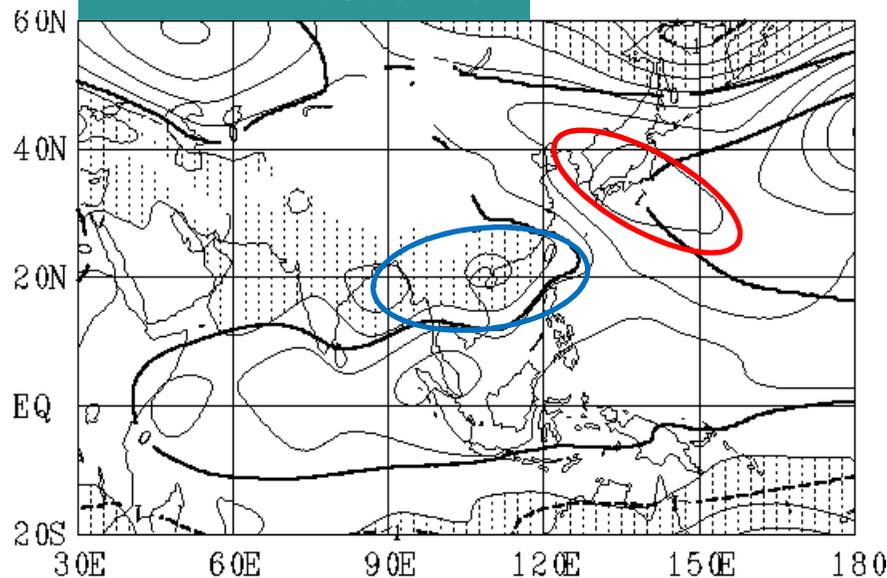
ベンガル湾からフィリピンの東にかけて顕著な多雨偏差。一方、日本付近は少雨偏差。

200hPa流線関数



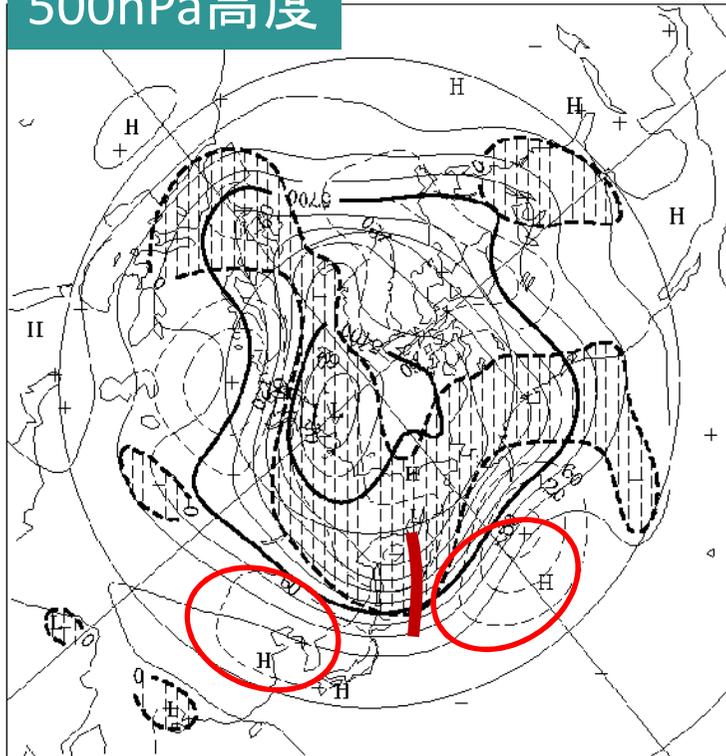
亜熱帯ジェット気流の蛇行が明瞭で、華北付近にリッジ、オホーツク海付近にトラフ、アリューシャン付近で高気圧性循環偏差。北日本中心の東谷。

850hPa流線関数



インドシナ半島から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、西日本中心に高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動の影響を示唆(PJパターン)。朝鮮半島から北日本にも高気圧性循環偏差が伸び、上層のリッジの影響を示唆。

500hPa高度

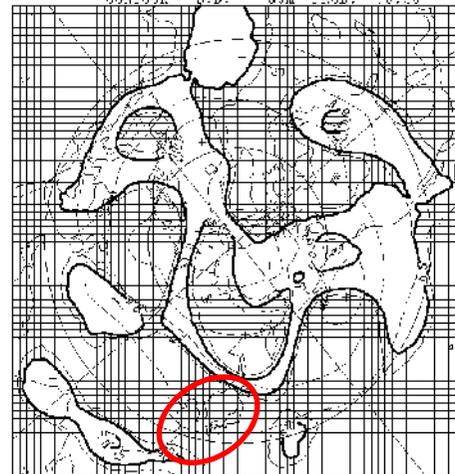
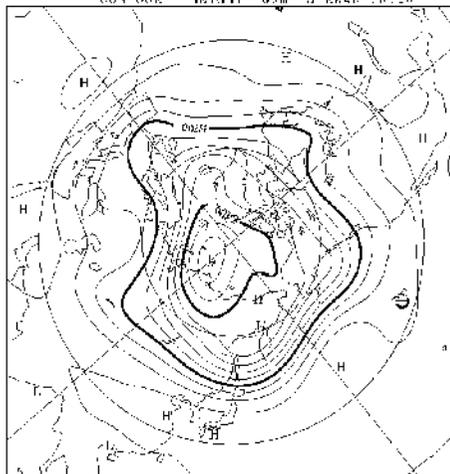


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

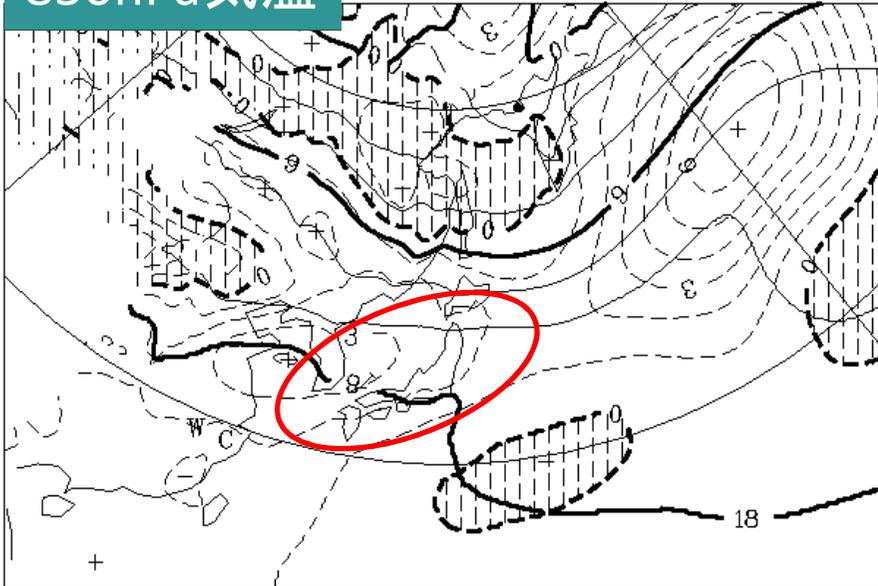
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



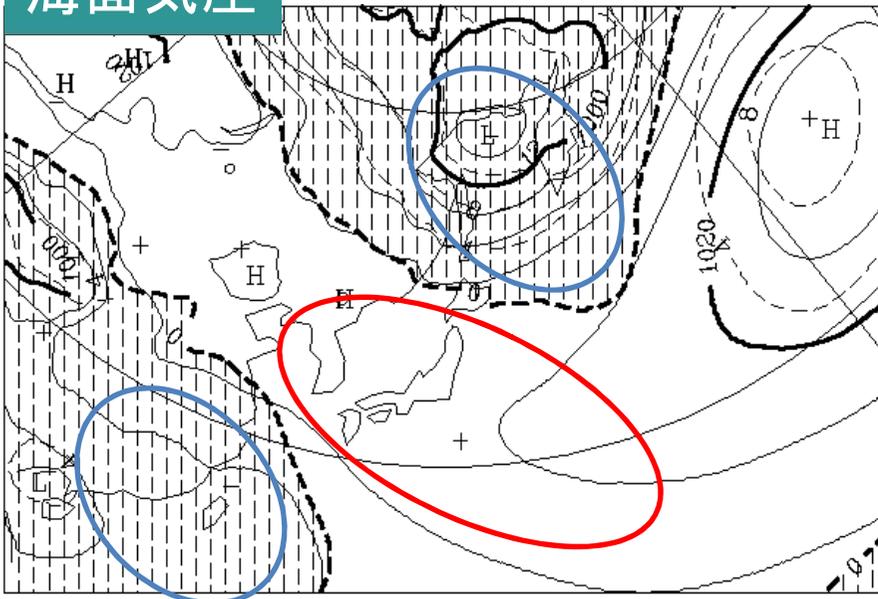
500hPa高度では、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に広く覆われる。華北付近と日本のはるか東に強い正偏差域がある一方、オホーツク海付近にトラフがあって、北日本中心の東谷。

850hPa気温



日本付近は、正偏差域に覆われる。

海面気圧



太平洋高気圧が強く、朝鮮半島付近まで張り出す。一方、沖縄・奄美付近は、気圧が低く、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

また、上層のトラフに対応してオホーツク海付近に低気圧があり、北日本では低気圧や前線の影響を受ける時期がある。

想定される天候

北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

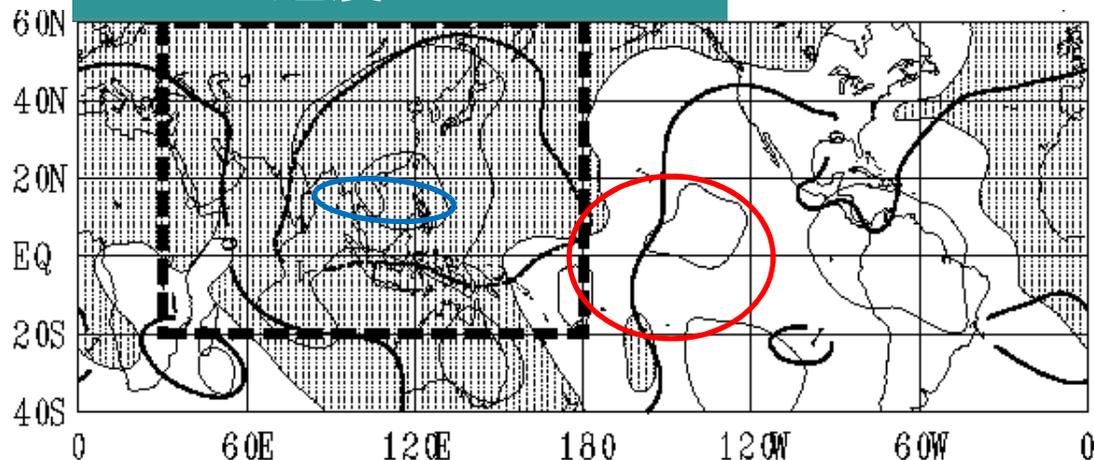
<気温>

・暖かい空気が流れ込みやすいため、全国的に気温が高く、気温がかなり高くなる所もある。

<天候>

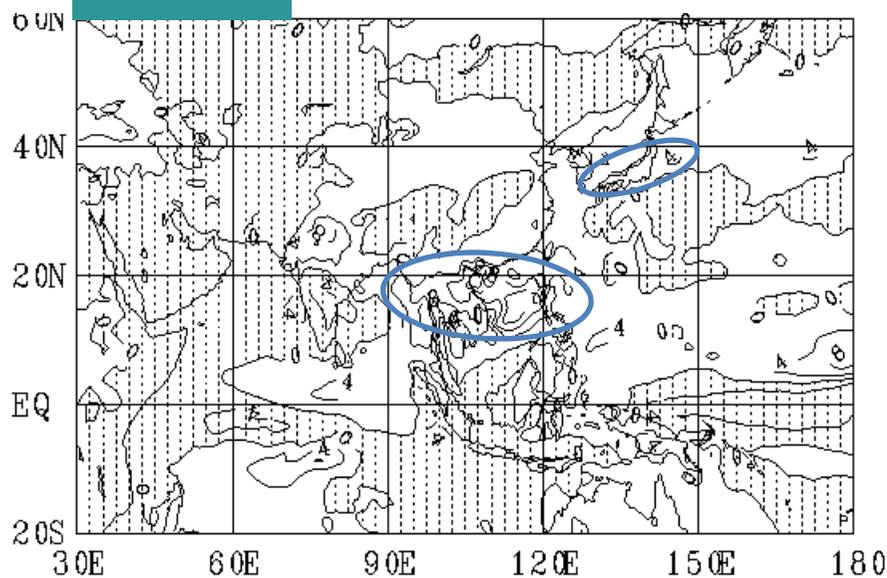
・北・東・西日本では高気圧に覆われやすいため少雨多照、東・西日本日本海側はその傾向が強い。
・沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響で、多雨寡照。

200hPa速度ポテンシャル



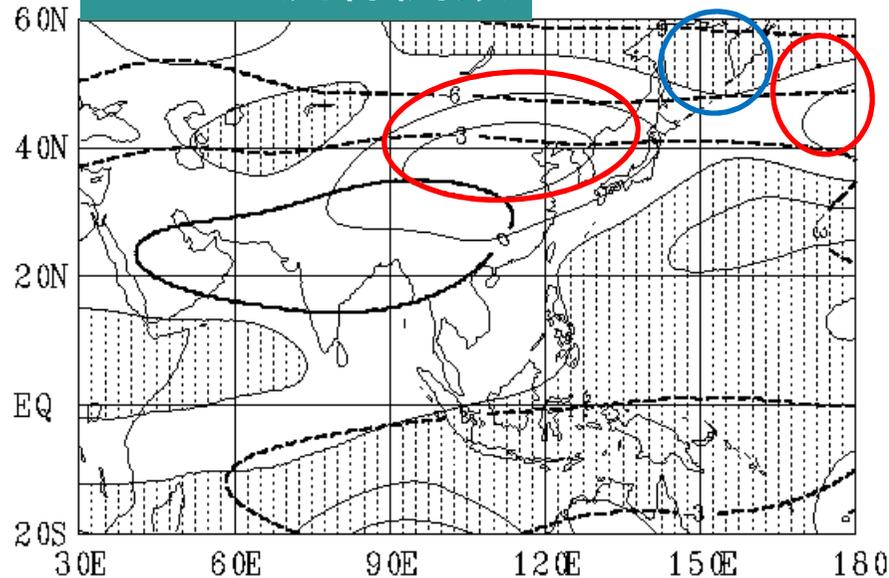
インドシナ半島付近からフィリピン付近にかけて上層発散偏差。中部太平洋で上層収束偏差。夏季の熱帯季節内変動の位相とSSTを反映。

降水量



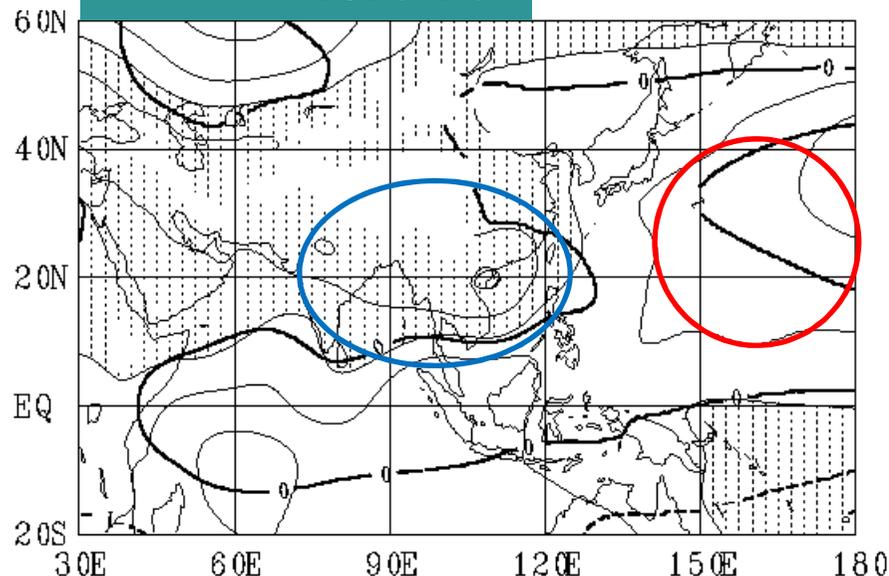
ベンガル湾付近からフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



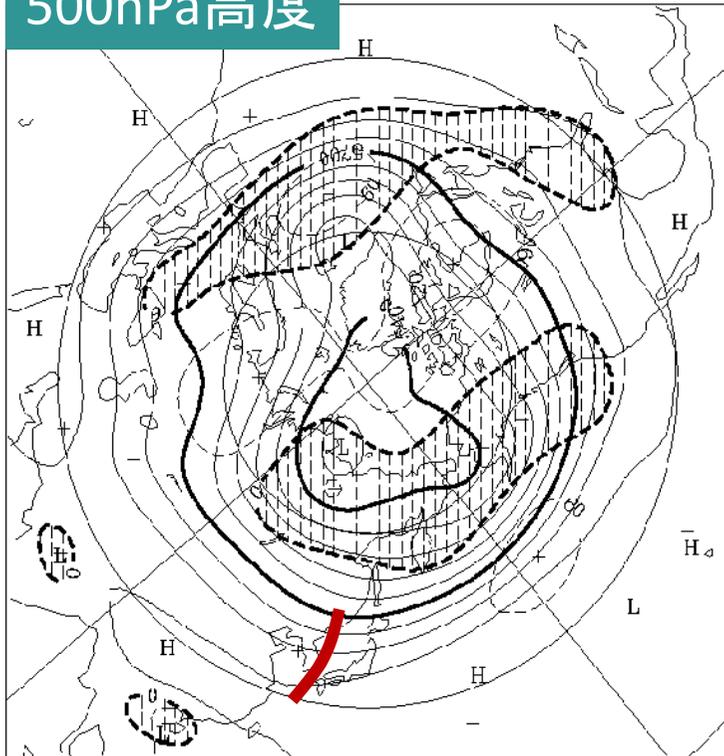
亜熱帯ジェット気流沿いに波列状の偏差パターンがあり、その一環として、華北付近とアリューシヤンの南で高気圧性循環偏差、オホーツク海付近で低気圧性循環偏差。1週目に比べて波列の振幅は弱まる。

850hPa流線関数



アラビア海から南シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差で、アジアモンスーン域の活発な対流活動の影響がある。日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

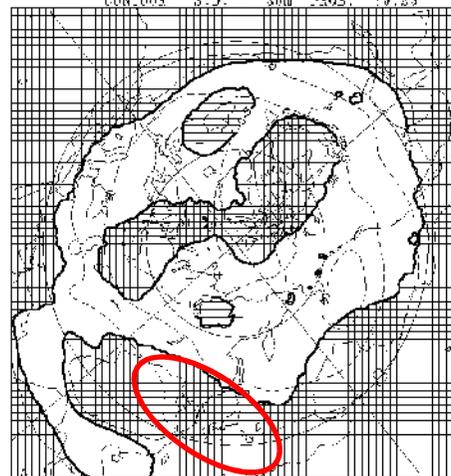
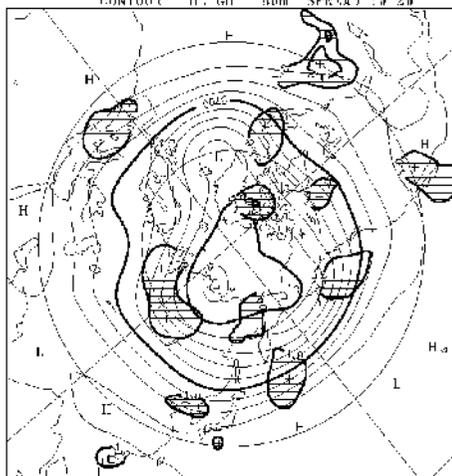
500hPa高度



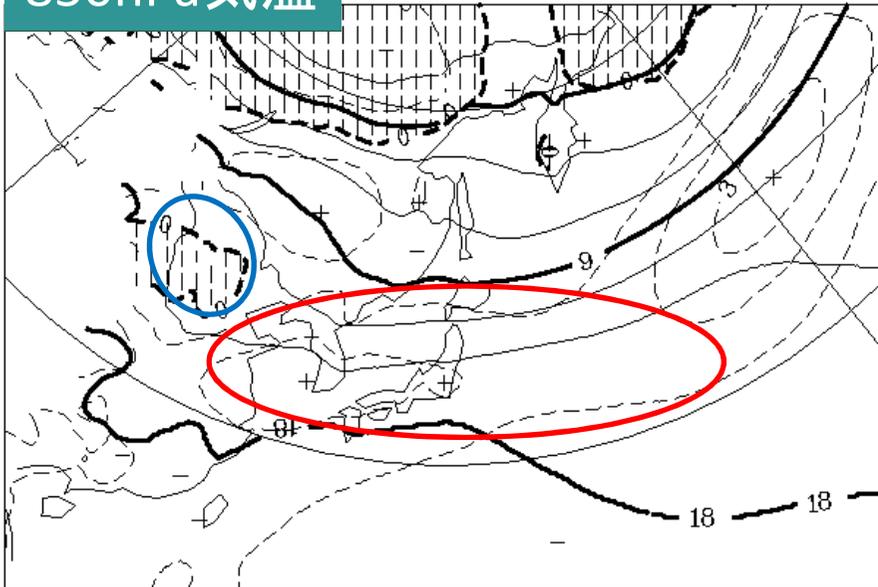
500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。朝鮮半島付近にトラフがあり、日本付近は西谷傾向。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

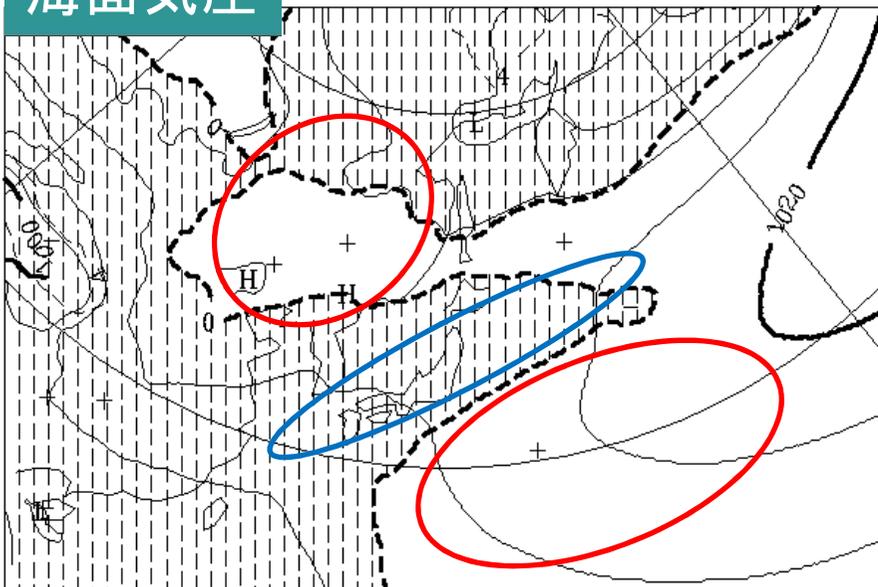


850hPa気温



日本付近は、広く高温偏差。華北付近に負偏差域がある。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の南で強く、中国東北区付近には高気圧がある一方、その間の本州付近は気圧が低く、秋雨前線の活動が活発となりやすい。また、沖縄・奄美付近では気圧が低く、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温がかなり高い所が多い。

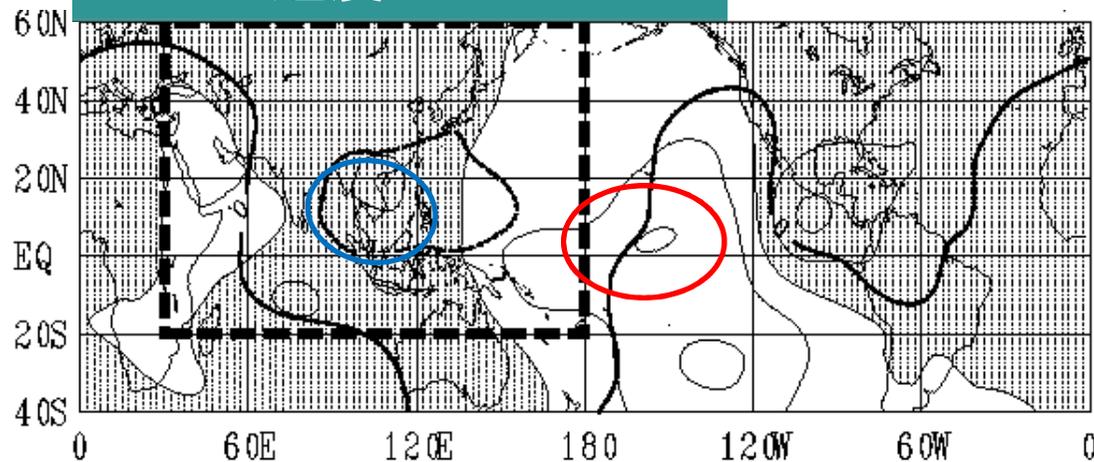
<天候>

・北日本では、低気圧や前線の影響を受けやすく、多雨傾向寡照傾向。その傾向は日本海側の方が明瞭。

・東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受ける時期があり、やや多雨やや寡照。

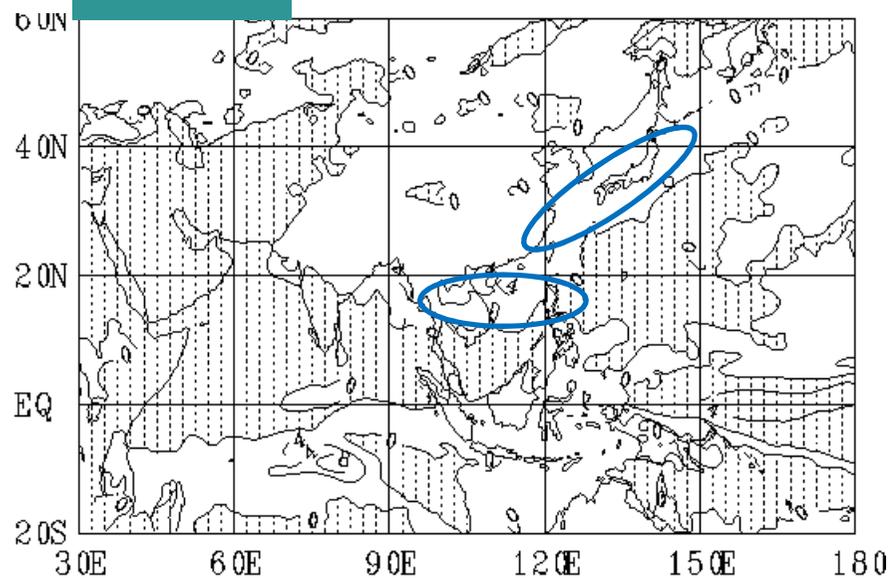
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期がありやや多雨で並照。

200hPa速度ポテンシャル



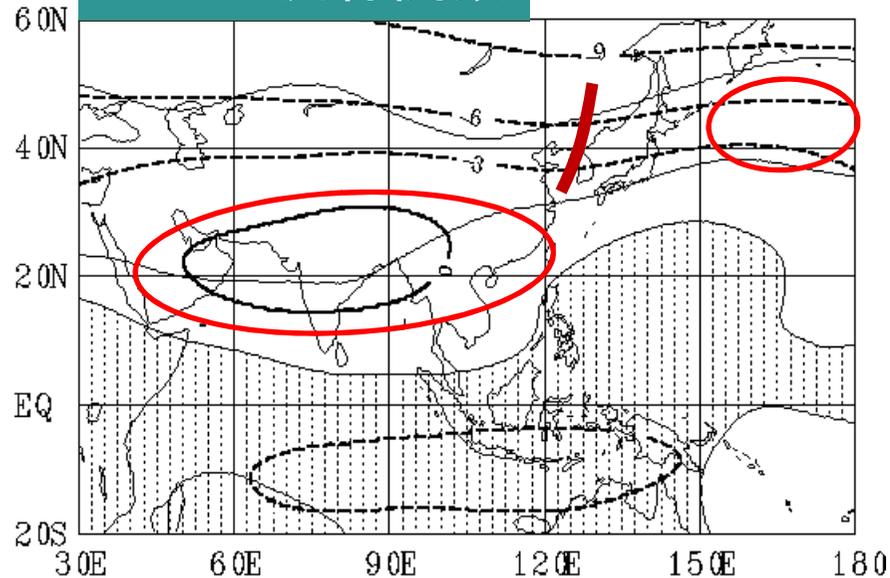
中部太平洋で上層収束偏差、
東南アジア付近で上層発散
偏差でSSTを反映。

降水量



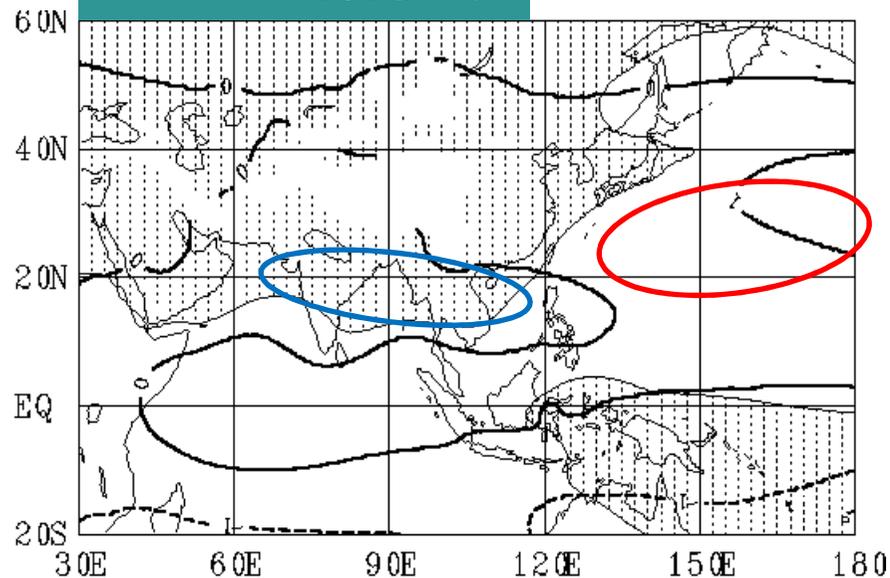
インドシナ半島から南シナ海に
かけて多雨偏差。日本付近も
やや多雨偏差。

200hPa流線関数



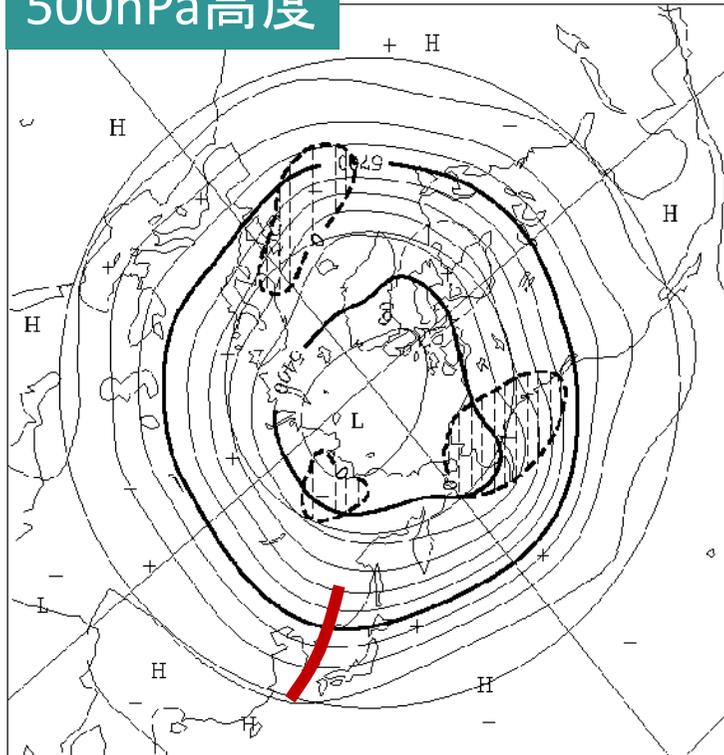
対流活動に対応してチベット高気圧の衰弱が弱く、アジア大陸南部で広く高気圧性循環偏差。その東の朝鮮半島付近にトラフ、日本のはるか東で高気圧性循環偏差。これらの影響で日本付近は西谷傾向。

850hPa流線関数

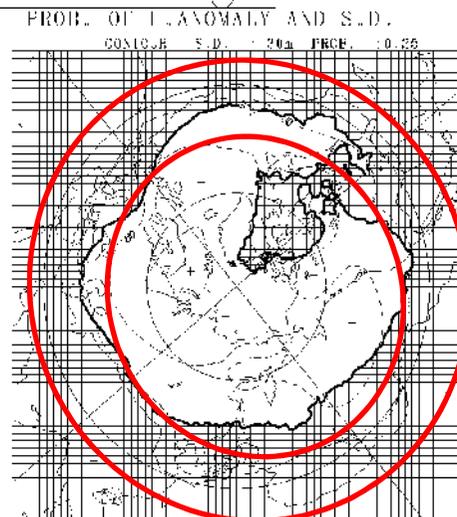
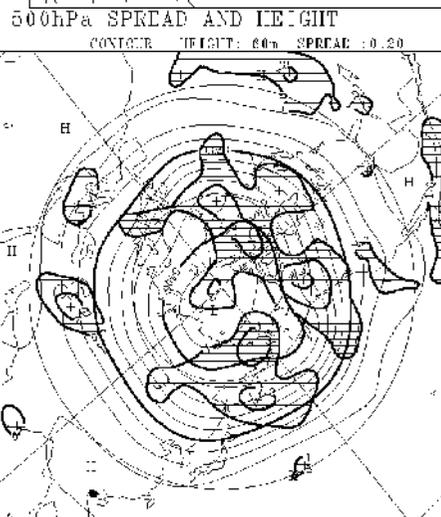


ベンガル湾からインドシナ半島付近にかけて低気圧性循環偏差だが、2週目よりは弱まる。日本の南から東にかけて高気圧性循環偏差。

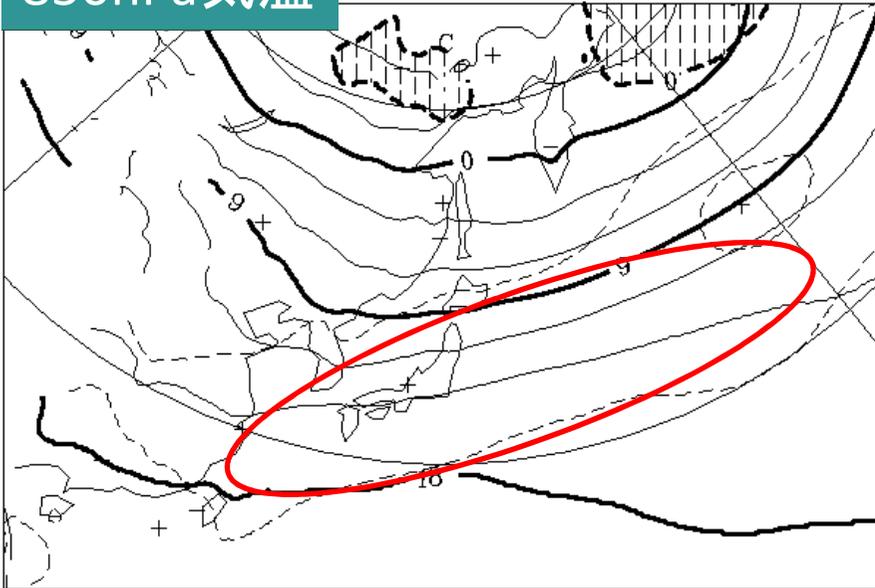
500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。朝鮮半島付近にトラフがあって、日本付近は西谷傾向。



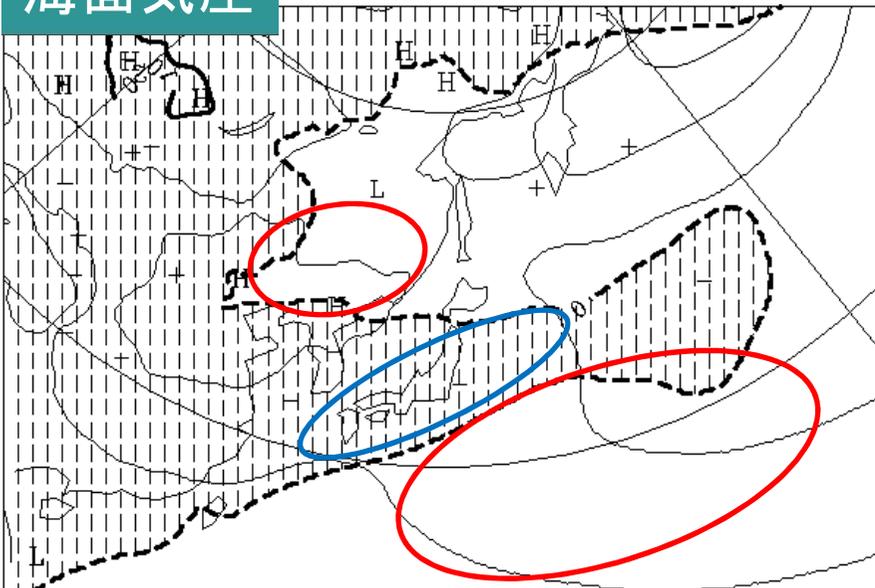
850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われる。

日本付近は暖かい空気に覆われやすい。高温偏差の中心は東・西日本と沖縄・奄美。

海面気圧



太平洋高気圧は日本の南東で強い一方、華北付近には高気圧がある。その間の日本付近は、負偏差で本州付近は前線帯となり、北・東・西日本では秋雨前線の影響を受けやすい時期がある。沖縄・奄美付近は湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

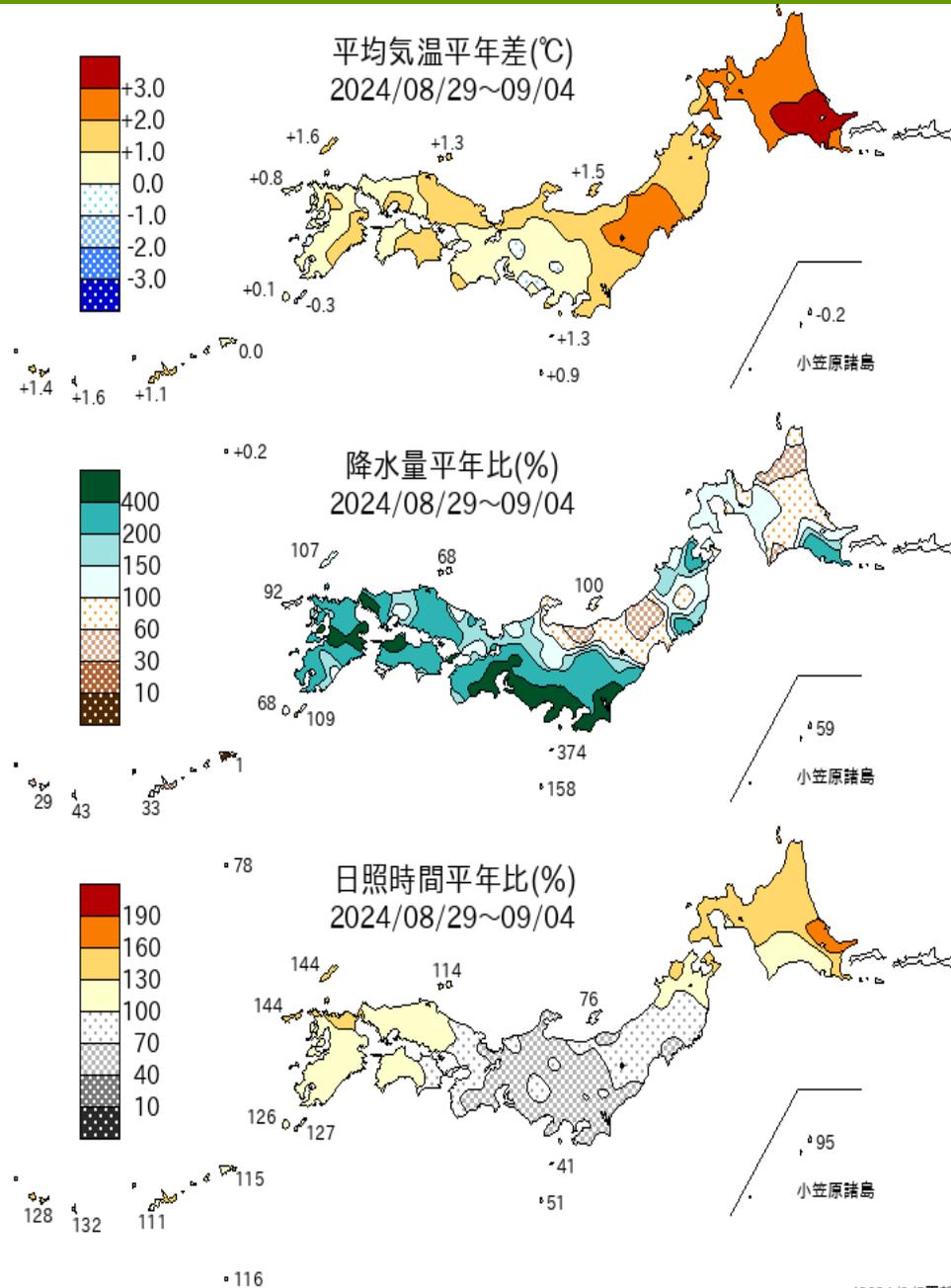
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温が高くなる見込み。

<天候>

・秋雨前線の影響を受けやすい時期があるため、北・東・西日本ではやや多雨やや寡照、
沖縄・奄美では、並雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(8月29日~9月4日)は、期間の前半は、台風第10号や暖かく湿った空気が流れ込んだ影響などで、東・西日本太平洋側を中心に記録的な大雨となりました。期間の後半は、前線が北・東日本を通過した後に、北・西日本では高気圧に覆われ晴れた所が多くなりました。沖縄・奄美は緩やかに高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間が平年を上回りました。

気温は、暖かい空気に覆われ、また、南から暖かい空気が流れ込んだことから、ほぼ全国的に平年を上回りました。